

高知 CST 協会会報 NO.8

高知 CST 協会 平成 29 年 3 月 6 日発行

28 年度 受講生懇談会

平成 28 年度の受講生懇談会が、1 月 21 日(土)に高知大学総合研究棟会議室 1 で開催されました。高知 CST 養成・活動事業実施委員長の蒲生先生(高知大学)の挨拶の後、中級 CST 受講生の岩井圭先生(清水小学校)、山口真司先生(八束中学校)の司会のもと、懇談会が行われました。

話し合いは、2 つのグループに分かれて行われました。受講生に事前に行ったアンケートに基づいて、活発に意見が交わされ、今後の CST 活動に向けた各受講生の抱負等が話し合われました。グループ討議の後、2 人の司会者からそれぞれのグループでの話し合いの概要が報告されました。



理科教育シンポジウム



高知 CST の発表



ポスター発表の内容紹介

高知 CST 養成・活動事業主催の全国に向けた「理科教育シンポジウム」が 1 月 21 日(土)に開催されました。全国版のシンポジウムを高知で開催するのは、今回で 4 回目になります。シンポジウムには、多くの CST、受講生が参加しました。「高知 CST 養成・活動事業の成果概要」の報告に続き、「高知県の教育の現状」についての講演、「統計的に見る高知県の理科学力定着状況」と題する基調講演がありました。研究発表では、高知県内外から、口頭で 7 件、ポスターで 9 件の発表があり、活発な意見交流ができました。

情報交換会は、和やかな雰囲気のもと、参加各県の CST 事業の現状等をより詳しく知ることができました。

CST 受講生の活動紹介

CST 受講生も既に CST 活動を行っています。

H28 年度 中級 CST 受講生の岩井圭先生(土佐清水市立清水小学校)の CST 活動のようすがうかがえる資料を紹介します。これは岩井先生が清水小学校で「研究部だより」として定期的に発行している研究資料の一部です。紙面の都合で一部しかお伝えできないことが残念ですが、CST としての活動の様子は分かりいただけると幸いです。

～研究部だより～

アクティブ・ワーキング

2016年9月28日 NO15 文責：岩井 圭

受動的な活動から能動的な活動へ ～主体性と協働性を高める問題解決学習の在り方～

9月16日に清水小でCST研究授業をさせていただきました。5年1組と『台風と天気の変化』を公開したのですが、事後研で手厳しいながらもとても参考になる意見をたくさんいただきました。特に助言者である楠瀬先生から「子どもたちは真剣に先生の指示を聞いて、よく動いている。時間内に予定していたことを全て行うこともできていた。しかし、ただそれだけなんだよね。」という言葉にはっとさせられました。つまり授業が全て教師からの指示で進んでおり、子どもたちは指示に従うだけになっているということです。確かにそれでは清水小が目ざしている「主体的・協働的な学び」とは程遠いものになってしまいますね。形上は対話やグループ協議、実験なども取り入れていましたが、それらは**教師が子どもたちにさせたもの**であり、45分を通して子どもたちは受動一方になっていたため、理科で特に重要視されている自ら課題を見つけ、自分たちで解決していく問題解決学習ができていなかったのです。

では、どうすれば受動的な活動を能動的な活動に変換することができたのでしょうか？実はそんなに難しいことはありませんでした。以下を参照してください。

※実際の資料では、このスペースに「実際に行った授業の展開」と「能動的な問題解決学習ができる展開」の比較を行っていますが、紙面上の都合で割愛させていただきました。

ポイントはこちらが指示した調べ方を子どもたちに考えさせることです。時間がかりそうですが、展開を比較するとそうでもないことに気づきます。**主体性と協働性に重きを置いた教材研究**と**発想の転換**で、子どもたちの能動的な活動が増え、なおかつ時間短縮にもつながるのです。

H28年度 受講生認定証交付式

H28年度の受講生認定証交付式は3月4日に開催されました。今年は初級CST11名（大学院修了生7名、現職教員4名）、中級CST7名の18名が認定されました。



編集後記：平成28年度は18名が新たに高知CSTに認定され、これまでに高知CST養成・活動事業が認定してきたCSTは74名になりました。県教委が取りまとめた、皆さんの活動状況を見ると、平成28年度のCST活動はこれまでよりさらに活性化していることがうかがえます。今後もこの活動をますます盛んにして高知県の理科教育推進をリードしていきたいものです。さらなる活動の充実を図るため、ますますの交流を深めていきましょう。